

Schütziana

The Gymnocalycium Online Journal



Volume 11, Issue 3, 2020
ISSN 2191-3099

This journal was published on December 1st, 2020

目次 (Content)

Wick, Mario	編集者より	p. 2
Papsch, Wolfgang	A.V.Frič が収集した、2 つの <i>Gymnocalycium</i> 分類群に関する注記: <i>Gymnocalycium michoga</i> と <i>Gymnocalycium knebelii</i>	p. 3-13

発行日: 2020 年 12 月 1 日

法的通知

出版者: WORKING GROUP SCHÜTZIANA, Mario Wick, Am Schwedderberg 15, 06485 Gernrode, Germany

編集チームと内容に責任: <https://www.schuetziana.org/index.php/contact-us>.

SCHÜTZIANA はワーキンググループ SCHÜTZIANA の雑誌です。

供給源: SCHÜTZIANA は、ワールド・ワイド・ウェブを介してのみ PDF ファイルとして利用可能で、次のサイトからダウンロードできます。: <https://www.schuetziana.org/index.php/downloads>.

それぞれの記事の内容は執筆者の意見を表現し、ワーキンググループ SCHÜTZIANA の意見と一致している必要はありません。

SCHÜTZIANA の刊行物は無料で、自由に配布することができます。内容および SCHÜTZIANA の記事の写真は著作者の財産であり、許可なく、印刷や保存を読む以外の目的に使用することはできません。

© 2020 ワーキンググループ SCHÜTZIANA 著作権所有

ISSN 2191-3099

表紙写真: *Gymnocalycium schickendantzii* WP 612/1163, アルゼンチン、La Rioja 州、RP 6、RN79 との交差点の西 16 km、山脈 Sierra Brava (写真: W. Papsch)

Editorial (解説)

親愛なる *Gymnocalycium* の友人



Mario Wick

ギムノカリキウム属への執着は、植物の世話、花や果物の特徴の観察、体、花、種子の測定に限定される必要はない。個々の分類群について言及した、過去に発表された文献に目を通すことは、しばしば価値がある。小さな所見や傍注、フィールドデータを収集する人々による旅行記のわずかな詳細、または種子や植物のリストの注釈は、説明が不十分な名前を識別するための貴重なヒントを得ることができる。当然、この種の活動は時間がかかり、むしろパズルに似ている。しかし、得られた情報を植物に関する知識の空白を埋める事は、確かに満足のいくものである。植物の採集者や貿易業者が、利己主義や商業的計算から、故意に産地に関して間違った詳細を与えるという問題がしばしば発生する。その好例は、*Gymnocalycium oenanthemum* の産地が **Mendoza** とされたことである。

古い記述を研究する時、私たちは 20 世紀前半の時期における、付記『*spec. nov.* (新種)』を忘れてはならない。これは、新しく発見された植物名に対し、これらの植物への興味を刺激するのに十分であった。これは、購入、調査、場合によっては、より多くの情報を収集して公開することを意味する。したがって、将来の研究者がそれぞれの情報を集めて結論を出すには、探偵のような本能が必要である。

いつものように、楽しんで読んで下さい！

我々は、英語への翻訳でサポートしてくれている、Iris Blanz 女史(Fernitz、オーストリア)、Brian Bates 氏(ボリビア)と Graham Charles 氏(英国)に、ロシア語への翻訳では、Larisa Zaitseva 女史(Tscheljabinsk、ロシア)に、日本語への翻訳では、Takashi Shimada 氏(日本)に、中国語への翻訳では、Jiahui Lin 女史(中国)に、そしてまた我々の出版物のミラーサイト(<http://www.cactuspro.com/biblio/>)の Daniel Schweich 氏(フランス)に、心から感謝の意を表したいと思います。

A.V.Frič が収集した、2 つの *Gymnocalycium* 分類群に関する注記 : *Gymnocalycium michoga* と *Gymnocalycium knebelii*



Wolfgang Papsch

Ziehrerweg 5, 8401 Kalsdorf (Austria)

E-Mail: wolfgang.papsch@cactusaustria.at

概要 (ABSTRACT)

Gymnocalycium michoga Frič と *G. knebelii* Frič nom. nud. は、サボテンのコレクションの中にはほとんど、または、まったく存在しない 2 つのサボテン種である。どちらもアルゼンチンでプラハ(Prague)の A.V.Frič によって最初に発見され、次にヨーロッパに輸入された。それらの分類学的位置、したがって命名法に関するそれらの状況は、過去にさまざまな方法で調査された。

キーワード(KEYWORDS): *Gymnocalycium*, *michoga*, *knebelii*, Province Santiago del Estero

序論 (INTRODUCTION)

植物を集める事を目的とした、8 つのうち 7 つの旅行で、プラハ(Prague)のサボテン商人である A.V.Frič は、ラテンアメリカの多くの国を訪問した。全体として、彼はこれらの冒険に 9 年を費やした。旅行の過程で、彼はアルゼンチン、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイで多くの植物を集めた。彼の発見の大部分は、デンマークの Johannsen とベルギーの De Laet 園芸店に行き、後にドイツの Erfurt にある Haage 社にも行った。多くの植物が Prague-Smichov の彼自身の事業に持ち込まれ、そこで種子を提供するために使用された。第二次世界大戦が始まるまで、彼は彼の園芸店に 30,000 を超える十分に生育したサボテンを収容したが、1939/1940 年の非常に寒い冬には耐えられなかった。

このように、多くの新しい、そしてこれまで未知のサボテン種が、ヨーロッパに到達した。Frič がそれらに名前を付けたという事実にもかかわらず、それらのほとんどは未確認、または未記述のままであった。Frič は ICBN (International Code of Botanical Nomenclature) の規則を無視したため、大部分は植物の記述が欠落しているため、多くの Frič の命名したものが有効に公表されていない。新しい名前の大部分は、1926 年から 1936 年の間に、種子と植物を提供する、合計 8 つの価格表により、サボテンに関心のある人々のコレクションに取り入れられた。

これらの価格表は Frič の命名した植物の実質的な情報源であり、過去に、それらの名前の有効性に関する議論を引き起こした。これは、Frič が短いコメントを加えた名前に、特に言及される。一部の著者は、特定の場場合には規則に従っていると見なして、一部の名前は有効に公表されたと考えている。他の

人は、これらの発言は、単に顧客に追加情報を提供することを意図しており、従って、名前が正当に公表されないと確信している。

議論 (DISCUSSION)

1. *Gymnocalycium michoga* Frič

1928年にFričは彼のカタログ『Cacti The Coming Fashion』の種子アイテム20の中で初めて提供した。:*Gymnocalycium michoga*, Frič, spec. nov. (新種) (fig. 1) その産地は St. Jago (Province Santiago del Estero 州)と言及している。(Frič1928)説明が不足しているため、この名前は裸名である。Fričは、1927年1月から6月までの7回目のラテンアメリカツアーでこの植物を発見した。1927年6月13日、Pragueの雑誌『Praktischer Berater für Wohnungs- und Kleintierhaltung (屋内栽培と動物飼育の実用ガイドブック)』の編集者に宛てた手紙に、この旅の簡単な要約が記載されている。その手紙は Buenos Aires で書かれた。(Crkal 1983: 159)



A. V. FRIČ,
PRAHA-SMÍCHOV 148.
CZECHOSLOVAKIA.

CACTI

THE
COMING FASHION

Be prepared and grow Cacti from Seed

CHEAP SEETS ARE
VERY EXPENSIV

No. 22. Different vars. of *Echinopsis campylacantha*, Pfeiff. and *E. leucantha*, Lem. Seeds of these varieties produce many variations as shown on the picture, some of them are called *E. campylacantha*, others *leucantha* or *salpingophora* etc. though they have the same seed-parents.

We are glad to hand you an offer of the most beautiful and rare varieties of South America, which have nearly disappeared in the European and American collections, as there was nobody who could find and collect these varieties in their native-country. Now we can offer the results of a botanic expedition of the wellknown explorer A. V. Frič through Brazil, Uruguay, Argent. Patagonia, St. Jago, the Cordillera, Chaco and Paraguay.

The South-American varieties are by far not so delicate as the Mexican varieties. They are of robust growth and are very suitable for cultivation and seed-growing because many of them can stand severe cold and are preferred for seed-growing. Many varieties are specially fit for private collections, as they grow very quickly and flower very soon.

CORR.: ČESKY, DEUTSCH, ENGLISCH, ESPAÑOL, FRANÇAISE, PORTUGUEZ.

PRICE-LIST FOR 1928

No.	The South-American Varieties	Origine	U.S. \$ Price per	
			10 seeds	100 seed
Cereus				
*2	<i>aethiops</i> , Haw	Bahia blanca	0,12	1,-
*3	<i>coarulescens</i> , S.-D. f. Patagonen		0,12	1,-
*4	<i>coarulescens</i> v. <i>melanacantha</i> , Sd.	Rio Negro	0,10	0,80
*5	Dayanii, Spag. Fruit-tree, makes every year long sprouts about 35/50" long. Fruits are eatable. Especially fit for grafting	Chaco	0,15	1,25
*6	(Moovillee) Spagazimii, Wd., a true <i>Cereus</i> ! Fruits with red flesh (not white as Rose believed) of pleasant flavour. Flowers nocturnal, smelling sweetly. Blue and white marbled body.			
*7	<i>validus</i> , Haw	St. Jago	0,15	1,25
8	<i>validus</i> forma <i>alpina</i>	St. Jago	0,10	0,80
9	<i>validus</i> forma <i>brevispina</i>	Salta	0,15	1,25
10	<i>validus</i> forma <i>pruinosa</i>	St. Jago	0,15	1,25
*11	<i>validus</i> from Humus-soil	Las Breñas, Chaco	0,18	1,50
12	<i>validus</i> from Humus-soil	Saens Peña, Chaco	0,10	0,80
*13	<i>Stenogonus</i> , Sd.	Paraguay	0,18	1,50
14	<i>Paraguayensis</i> , Sd. (not <i>alacrip</i>)	Paraguay	0,18	1,50



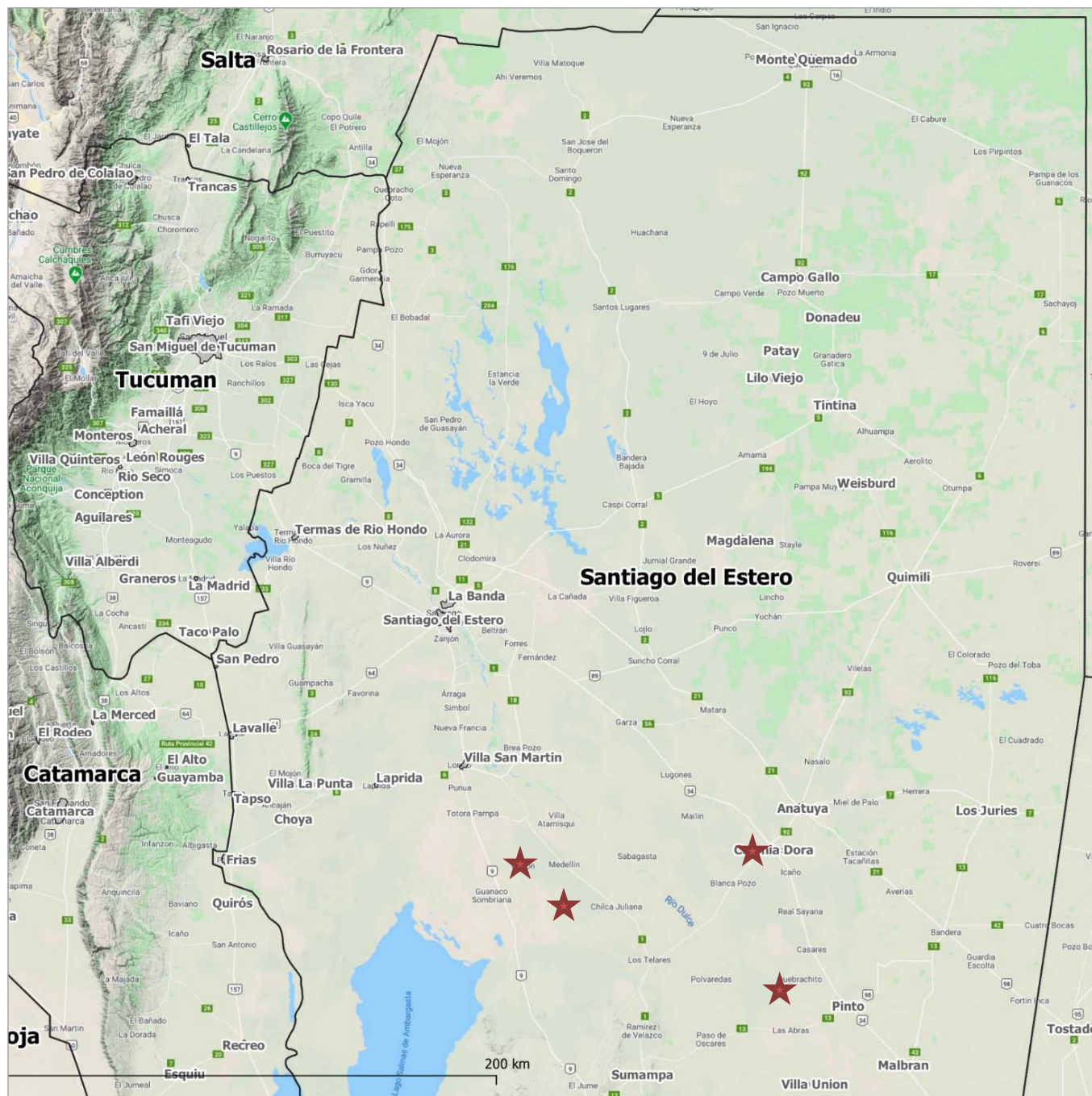

No. 18. *Gymnocalycium gibbosum*, Haw. (*Echinocactus gibbosus*).

No. 61. *Trichocereus gladius*, Rh. Growing on small hills in the salt-desert. Plants must have some sea-salt in cultivation, else they will loose their brilliant light-green color and become creeping and corky. There is no better grafting-stock. Plants have orange-like fruits of pleasant taste.

*15	<i>Cleistocactus aureispinus</i> , Frič, spec. nov.	St. Jago	0,12	1,-
16	<i>Discoactis placentiformis</i>	Matto Grosso, Brazil	3,-	-
Gymnocalycium				
17	<i>caespitosum</i> , Frič, spec. nov.	S. Ventana	0,40	-
18	<i>gibbosum</i> , Haw. (see illustration)	Patagonen	0,25	2,-
19	<i>Mihanovichii</i> , v. <i>stenogona</i> , spec. nov.	Chaco	0,40	-
19a	<i>Mihanovichii</i> , Hybrid	Chaco	0,25	2,-
*20	<i>michoga</i> , Frič, spec. nov.	St. Jago	0,15	1,25
21	<i>Knebelii</i> , Frič, spec. nov.	Salta	0,40	-
Echinopsis				
*22	<i>campylacantha</i> et <i>leucantha</i> (see illustration)	Rio Negro	0,10	0,80
23	nov. spec. from Paraguay	Cambüretá	0,25	2,-
24	<i>rhodotricha</i> , Sd.	St. Jago	0,15	1,25
25	<i>tucumanense</i> , Frič, nov. spec. Similar to <i>allispinosa</i> , Sd.	Tucuman	0,20	1,75

Fig. 1: Frič カタログ 1928 『Cacti The Coming Fashion』と提供されている *G. michoga*

1927年から1928年の間に、Fričは、雑誌 Möller's Deutscher Gärtner-Zeitung (MDGZ)の中で、『The Plant Hunter』という見出しで、この旅行の経験の報告を出版した。ブラジルとウルグアイに短期滞在した後、彼は最初に Patagonia と Sierra de la Ventana で *Gymnocalycium gibbosum* を探すためにアルゼンチンを旅行した。3月中旬頃、彼は Santiago del Estero 州に到着し、Colonia Dora に中継地点を設置した。この場所で、Fričは Salinas de Ambargasta の北東の縁にある塩砂漠で *G. michoga* を収集した。彼はそれらを初めてヨーロッパに送った(Crkal1983: 169)。



Map 1: 著者による、*G. michoga* の産地

(地図: Mario Wick, 出典: Google Maps)

Tucumán 州に寄り道した後(下記も参照)、彼は Colonia Dora に戻り、手紙で報告した。:

『脱出と雨、私はサボテンを梱包するために Dora に戻った。サボテンの梱包を担当する労働者は、私が期待したことをしなかった。一方、友人は私のために、いくつかの *G. michoga* を準備してくれたので、その乾燥した標本をもっと送ることができた。』(Crkal 1983: 171)

したがって、1927 年 3 月末から 4 月中旬にかけて、Dora 周辺の 2 つの区域(現在は Colonia Dora、Añatuya 南東の国道 RN(Ruta Nacional) 34 沿い、Santiago del Estero 州)で *G. michoga* を収集したことは間違いない。

Frič のコレクション・カタログ『Kakteenjäger』の発行年は、年を言及せずに、色々な版で発行されたため、さまざまなバリエーションがある。(fig 2) このカタログの 2 枚の写真に付加されている、『Cop. A. V. Frič 1929』の記述から、1929 年の出版年が最も可能性が高いと思われる。

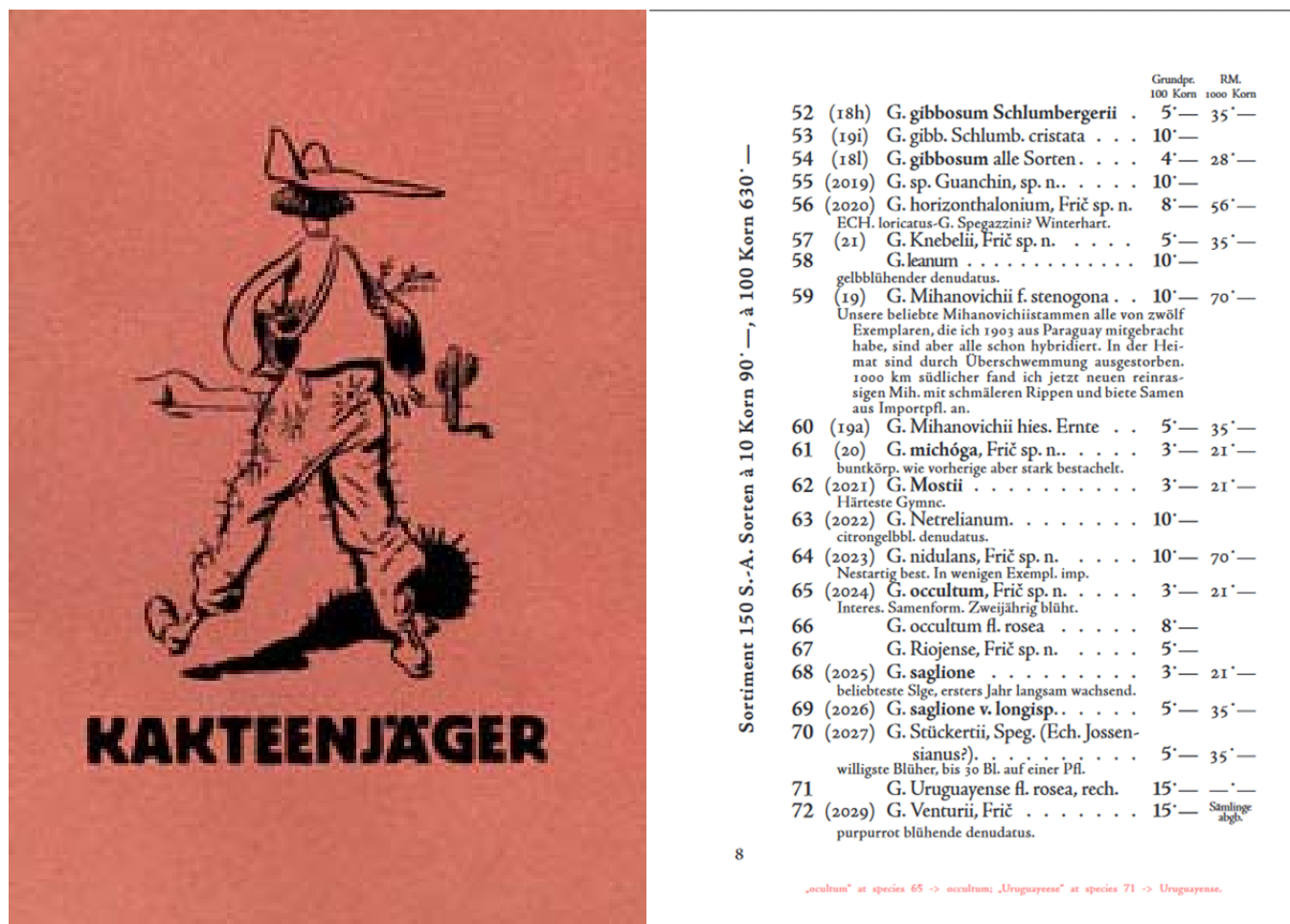


Fig. 2: *G. michoga* が提供された『Kakteenjäger』 1929

8 ページで Frič は *G. michoga*, sp. n. の種子を、再び番号 61 (20) (20; Cacti The Coming Fashion 1928 を参照) の下で提供している。この提供に関して、彼は『後者のような色のついた胴体 (*G. mihanovichii* 参照) であるが、刺が密集している。』(1929) と述べている。この注釈は、短いものの、記述および鑑別診断と見なすことができる。したがって、新しい名前は ICBN の規則(Art. 23.1, Rec. 32.A, Art. 38.1 と Art. 38.2) に準拠しているため、*Gymnocalycium michoga* Frič 1929 として引用されなければならない。Pažout (1964)、Schütz (1992)、Till (2020) もすでにこの意見を持っていた。したがって、Explanatory Diagram of Austroechinocactae (サボテン図説-南米物サボテンの分類) の説明図における伊藤による記述は、より最近のホモニム(異物同名) と見なされる。(Ito 1957)

このカタログ(100 粒 RM 3 と 1.000 粒 RM 21、RM ; ライヒスマルク) の *G. michoga* の価格は、下の価格帯に属していると分類出来る、Frič は、例えば *G. mihanovichii* f. *stenogonum*、或いは *G. nidulans* (100 粒 RM 10) のような、他の新しいものとは対照的に、豊富に持っていたに違いない。

1932 年のカタログ『Kakteenjäger zu Hause』では、彼はすでに *G. michoga* の実生苗を植物あたり RM 0.50 の価格で提供することができた。(Frič 1932)。Vienna の園芸店 Baumgartner は、新種の苗木を 1 本あたり ÖS 2 から 20 の価格(ÖS; オーストリア・シリング) で販売することもできた。(Baumgartner 1933, 1934)

Kreuzinger は、No.242 とメモ:『刺座周辺に、暗い点状の隆起』として *G. michoga* Frič 1926 をカタログに載せた。Kreuzinger が 1926 年 (Kreuzinger 1935) をどのように指定したかは確認できなかった。伊藤 (1957) と Charles (2008) も、確かに *G. michoga* の年の列挙を Kreuzinger から引き継いだため、これまで誤って引用している。

Frič は、*G. michoga* が *G. schickendantzii* に関連している可能性があることをすでに述べた。彼は、Dora から Las Breñas (Chaco 州) を経由して Chaco Austral に向かう旅についての手紙で、次のように書いている。:

『*Gymnocalycium* 属の植物を見つけたが、Sant Jago で集めたものとよく似ていて、とりあえず *G. michoga* と呼んでいた。また、陵に代わって、瘤がはっきりしているという事実を除き、それは *G. schickendantzii* に関連しているように見えた。メキシコでこの植物を見つけたら、間違いなく *Thelocactus tulensis* と識別する。花も果物も見つかりませんでした。おそらく新種かもしれないが、今のところまだ決めていない。最後に *G. michoga* を梱包してから 3 週間である。』(Crkal 1983: 175)

Colonia Dora の南、約 80km にある、Ft. Union の周辺 (現在の Villa Union?) は、Pažout によって別の地域として言及されている。この産地の指摘は、Fechser によって提供された植物に由来する可能性がある。おそらく、植物の繁殖はこの輸入便に由来する。Pažout はまた、これらの輸入品で *G. michoga* が再発見されたと想定している。

現代の文献では、*G. michoga* は、かなり変動する *G. schickendantzii* の同義語と見なされている。これは、ここで裏付けられた評価である。*G. michoga* は、その広大な分布域の北東の境界で発生する *G. schickendantzii* の局所的な形態とのみ見なすことができる。

伊藤による起源とは関係のない、少し重要な図を除き、Frič によって収集された植物の複製はこれまで発見されていない。Fričiana Rada の植物の 1 枚の写真 (fig. 3) は、*G. michoga* と呼ばれている。これは、*G. schickendantzii* グループの植物を表している。(Pažout 1964)

植物の外観に関しては、*G. schickendantzii* との類似性のヒントが役立つ。Herbarium Wageningen (WAG) (オランダ、Wageningen 大学植物標本館) の記録も便利かもしれない。(fig. 4) 植物標本シート 1879307 には、『*G. michoga* Frič; leg. d.d. 29.6.1961, loc. Wageningen, coll. De Goor C 696, uit coll. Buining, 元の Frič の植物の種子から育てた。』

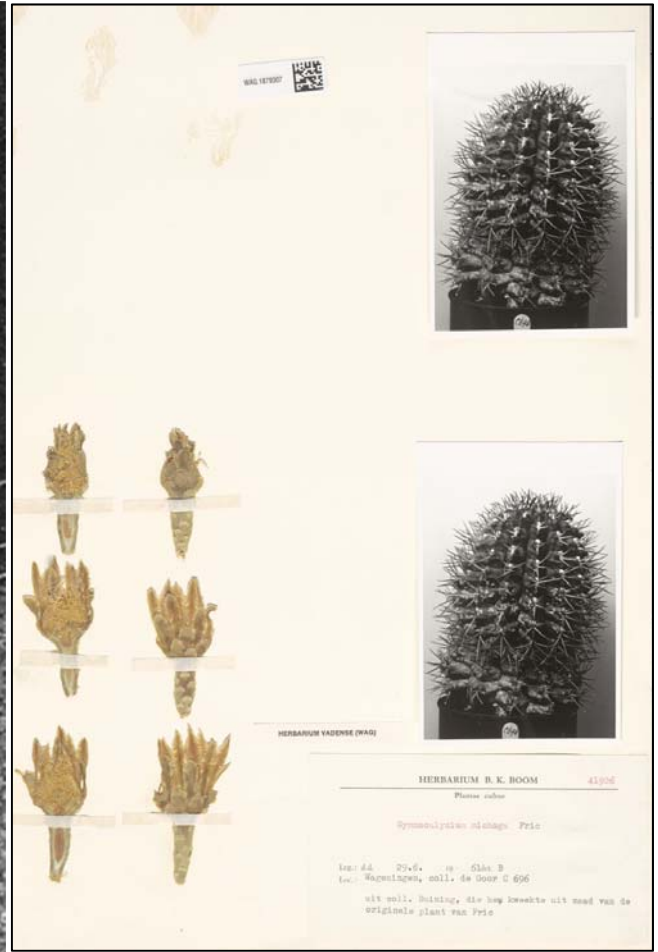
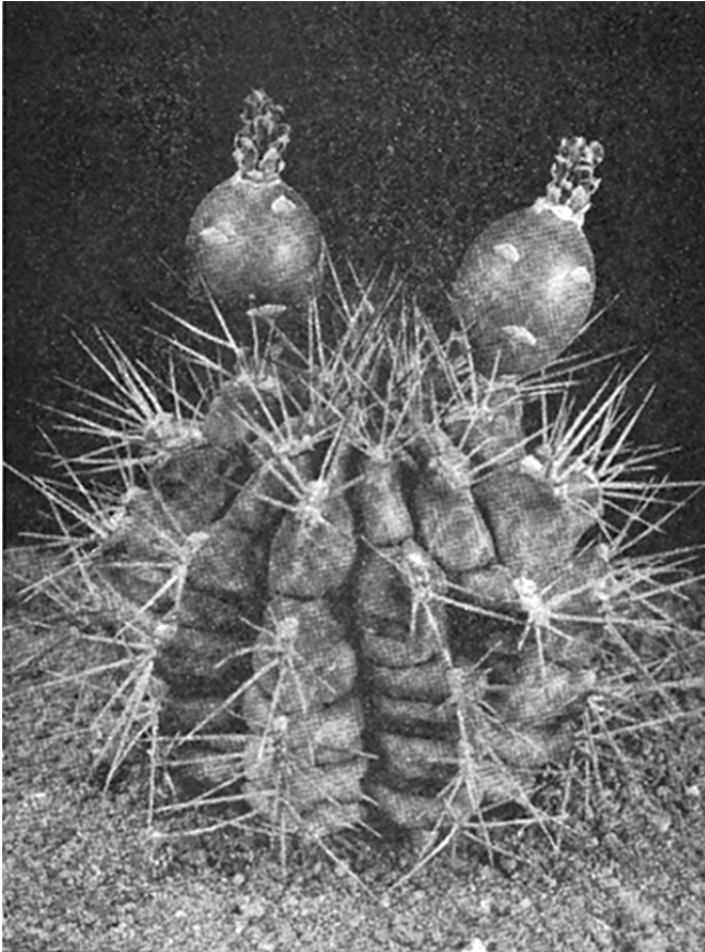


Fig 3: *G. michoga*, Fričiana Rada 23: 33 から複製、写真: Ing. P. Havránek

Fig 4: Wageningen 大学植物標本館の *G. michoga* のシート (www.gbif.org/species/3953294) 2020.

Colonia Dora は、Rio Salado の起源である Bañado de Añatuya の東端に位置し、Rio Dulce の流域範囲の西に位置し、Arroyo de Mailin、Arroyo Utis、Arroyo Saladillo などがある。この広大な沖積地にはまばらな Chaco 植生が広がっており、場所によっては植生が無い。(fig. 5-6, 9-10) Fričはこの風景を非常に鮮やかに描写している。(Frič 1928b) また、*Opuntia quilimo*、*O. aff. Sulphurea*、*Echinopsis leucantha*、*Stetsonia coryne*、*Cleistocactus spec.* から構成される、寄せ集めの灌木がこの狭い地域で散発的に成長する。しかし、上記の事実から判断すると、*G. schickendantzii* は Fričによって収集された *G. michoga* と見なすことができる。(fig. 7-8, 11-13)



Fig. 5-6: *G. schickendantzii (michoga)* の産地、Colonia. Dora の南、Santiago del Estero 州



Fig. 7-8: *G. schickendantzii* (*michoga*) の産地、Colonia. Dora の南、Santiago del Estero 州



Fig 9-10: *G. schickendantzii* (*michoga*) の産地、Pinto の西、Santiago del Estero 州



Fig. 11-13: *G. schickendantzii* (*michoga*) の産地、Pinto の西、Santiago del Estero 州

この *G. schickendantzii* のタイプは、San Gregorio と Rio Salado 間の国道 RN9 のさらに東にある。この区域の道路沿いに、サボテンの塊が地元の人々によって集められ、道端で売りに出される。(fig. 17-20)



Fig. 14-16: *Cleistocactus* spec. (左)、*Echinopsis leucantha* (中)、*Opuntia* aff. *sulphurea* (右)



Fig. 17-18: Salinas de Ambargasta の北部にある、国道 (RN)9 沿いで提供される植物 (右前の右側の写真が *G. schickendantzii*)



Fig. 19-20: Salinas de Ambargasta 北部の国道 (RN) 9 沿いで提供される植物。

Till と Amerhauser は、Tucumán 大学の植物標本館からの 2 つの証拠標本を参照している。これらの植物は、Santiago del Estero 州の最北端、国境の三角形 Salta-Tucumán-Santiago del Estero から起源である。言及された地域 (Est. Rapelli と Cerro del Remate) は、Colonia. Dora から約 300km 離れている。

2. *Gymnocalycium knebelii* Frič nom. nud.

彼のカタログ『CactitheComing Fashion』で、Frič は、別の新しい *Gymnocalycium* を引用番号 21 *G. Knebelii*, Frič, spec. nov.(新種)で提供している。彼は Salta を産地として指定している。詳細な記述がないため、この新しい名前は無効で公表された。(Frič1928a)

産地に関しては、それぞれ漠然とした不正確な記述のみが文献や Frič の記事に見られる。『Tucumán への道とさらに北へ』という小見出しの下で、彼は *G. knebelii* の発見について報告しているが、正確な場所については言及していない。

『ついに、待望の「Tiento del Zorro」が育った場所を見つけた。さまざまな低木の下で約 20 の植物を見つかることができ、蜜のある熟した果実があった。それは、*G. saglione* というより、Sant Jago で発見された *G. michóga* にかなり似ている *Gymnocalycium* であった。それは円形でも円筒形でも無いが、圧縮されており、緑色が少なく、刺座の間に大きな隆起がある。刺の数は *G. michóga* と同じだが、より強い。私が覚えている限り、若い植物は非常に似ているが、すべての *G. michóga* をすでにヨーロッパに送ったため、比較のための資料が不足している。私が比較できるのは種子だけである。サイズと形は異なるが、どちらも赤と黄色である。いずれにせよ、私が *Gymnocalycium knebelii* Frič sp. n.と名前をつけた新種がある。熱狂的なメンバーである Erlau の Curt Knebel 氏を偲んで。

私はこの国で次のサボテン種を発見した、**Gymnocalycium saglione (cubera del negra)*-**Gymnocalycium knebelii* Frič. sp. n. (tiento del zorro)-**Echinopsis shaferi* ? (cardon macho)-**Echinopsis tucumanense* Frič sp. n. (cardoncillo)-**Harrisia tortuosa* (?)-**Trichocereus terscheckii* (cardon.)-**Hickenia microsperma (penguita)*.... アスタリスク (*) で印をつけた種は、私にいくらかの種子を与えた。』(Crkal1983 : 169-170)

Frič の声明によると、彼が Dora を出て、北方向に Tafi Viejo と San Miguel de Tucumán を経由して Salta 州に至るまでの旅行中に *G. knebelii* を発見したのは事実である。Pažout は、Frič が Tucuman 州の Trancas の近くで植物を収集したと考えている。(Pažout1964)。

1929年に Frič は *G. knebelii*, Frič sp. n. もう一度、引用番号 57(21 = 1928年の彼のカタログ参照)の下で提供した。ここでも彼は記述を示していないため、名前は裸名のままである。(Frič 1929)

Kreuzinger は、*G. knebelii* を 1926 年として引用します。*G. michoga* についてすでに述べた事と同じ事実が、ここでも当てはまる。

おそらく Frič は、後に、もともとの植物に問題を抱えていた、そうでなければ、1933年の彼のカタログにある、彼の高価な種子の提供『460. *GC. Knebelii*, Frič』(種子提供者の死亡による値上げ)は説明できない。*G. mihanovichii* を除いては、彼はすべての他の *Gymnocalycium* 種の 2 倍の価格を請求している。(Frič 1933) Schütz はまた、この種はやや複雑で、元のコレクションまでさかのぼることができる資料は、ほとんど残っていないと述べている。(Schütz 1992) (訳者注; Schütz は『*G. marsoneri* は、*G. knebeli* とは、刺の総数だけにより異なっている事は明白であった。*G. knebeli* の実生苗は刺座当り、5本の縁刺しか無い。』と書いている。

結論(CONCLUSION)

G. michoga の正確な産地は、Colonia Dora 周辺として確立されなければならない。この分類群の分布域は、南へは Pinto まで伸び、西方向へは Salinas de Ambargasta まで伸びている。この植物は間違いなく *G. schickendantzii* と関連しているが、亜種または変種のランクにおけるそれ自体の固有の位置は不適切である。

G. knebelii は、現在の知識ではほとんど識別できない。これまでのところ、写真も詳細な説明も見つからなかった。一部の著者は、*G. schickendantzii* との関係は *G. marsoneri* との関係よりも可能性が低いと考えている。

感謝(ACKNOWLEDGEMENT)

Průhonice 植物学研究所の Jiří Zázvorka 氏と V. Sedivý(Prague)、および Gottfried Gutte 博士 (Berlin) にアクセスが困難な A.V.Frič による豊富な文献の提供に対して感謝の意を表します。

すべての写真は著者による。

文献(LITERATURE)

Baumgartner, G. (1933): Kakteenpreisliste 1932/33. - Eigenverlag Baumgartner-Wien.

Charles, G. (2009): *Gymnocalycium* in Habitat and Culture: 251. - Eigenverlag Charles-Stamford.

Crkal, K. (1983): Lovec Kaktusů (Der Kakteenjäger). - Verlag Academia-Prag.

Frič, A. V. (1928a): Cacti The Coming Fashion. - Eigenverlag Frič-Prag.

Frič, A. V. (1928b): Der Pflanzenjäger. Die Wüste in Grün, Rot und Gelb. Argentinien, St. Jago del Estero. - MDGZ 43(23):265-266.

Frič, A. V. (1929): Kakteenjäger. - Eigenverlag Frič-Prag.

Frič, A. V. (1932): Kakteenjäger zu Hause 1931-1932. - Eigenverlag Frič-Prag.

Frič, A. V. (1933): Akklimations- und Versuchsgarten A. V. Frič 1932-1933. - Eigenverlag Frič Prag.

Ito, Y. (1957): Explanatory Diagram of Austroechinocactinae: 175, 292-293. - Japan Cactus Laboratory.

Kreuzinger, K. (1935): Verzeichnis amerikanischer und anderer Sukkulente mit Revision der Systematik der Kakteen. - Eigenverlag Kreuzinger-Eger.

Nicholas J. Turland et al. (Hrsg.): International Code of Nomenclature for algae, fungi, and plants (Shenzhen Code) adopted by the Nineteenth International Botanical Congress Shenzhen, China, July 2017 (= Regnum Vegetabile. Band 159). Koeltz Botanical Books, Glashütten 2018, ISBN 978-3-946583-16-5.

Pažout, F. (1964): *Gymnocalycia* skupiny Muscosemineae. - Fričiana Rada IV (23): 8

- Schütz, B. (1992): Monografie der Gattung *Gymnocalycium*. - Eigenverlag Hold & Papsch-Graz/Knittelfeld (deutsche Übersetzung von Schütz, B.: Monografie rodu *Gymnocalycium*-Brno 1986).
- Till, H. & Amerhauser, H. (2020): Eine kaum bekannte, klein bleibende *G. schickendantzii* Variante. - *Gymnocalycium* 33(2): 1365 ff.
- Zázvorka, J. & Sedivý, V. (1991): Jména kaktusů A. V. Friče (Die Kakteenamen von A. V. Frič). - *Aztekia* 14: 3 ff.